

第 14 回 大阪市中央卸売市場南港市場運営協議会 会議要旨

- 1 日 時 平成 25 年 3 月 27 日（水） 午前 10 時 30 分から
- 2 場 所 南港市場 福利厚生棟 2 階会議室
- 3 出席者
(委 員) 明石委員、惣宇利委員、小島委員、佐野委員、杉本委員、瀬戸口委員、阪本委員
山口委員、大林委員、中平委員
(以上 10 名)
(本 市) 小倉中央卸売市場長、樋口企画運営担当部長、
米尾経営改善担当部長兼南港市場長、山根総務担当課長、栗本企画担当課長
松尾市場活性化担当課長、竹田保健主幹、須田食肉衛生検査所長 (以上 8 名)
- 4 議 題
(1) 南港市場の最近の状況について
(2) 南港市場の活性化について
- 5 議事要旨
 - ・松尾市場活性化担当課長より「南港市場の最近の状況について」説明を行った。
 - ・米尾経営改善担当部長より「南港市場の活性化について」説明を行った。
 - ・議題等について意見交換を行った。
- 6 会議資料
 - ・資料 1 南港市場の最近の状況について
 - ・資料 2 取組みの方向性
 - ・資料 3 南港市場の活性化について
- 7 問い合わせ先
中央卸売市場企画担当
T E L : 06-6469-7935
F A X : 06-6469-7939

第 14 回 大阪市中央卸売市場南港市場運営協議会 議事録

1 日 時 平成 25 年 3 月 27 日（水） 午前 10 時 30 分から

2 場 所 南港市場 福利厚生棟 2 階会議室

3 出席者

（委員）明石委員、惣宇利委員、小島委員、佐野委員、杉本委員、瀬戸口委員、阪本委員
山口委員、大林委員、中平委員
（以上 10 名）

（本市）小倉中央卸売市場長、樋口企画運営担当部長、
米尾経営改善担当部長兼南港市場長、山根総務担当課長、栗本企画担当課長
松尾市場活性化担当課長、竹田保健主幹、須田食肉衛生検査所長（以上 8 名）

4 議 題

- （1）南港市場の最近の状況について
- （2）南港市場の活性化について

5 議事要旨

議題(1) 南港市場の最近の状況について 松尾市場活性化担当課長より説明
議題(2) 南港市場の活性化について 米尾経営改善担当部長より説明

（委員）将来コンセプトにおける「目標 1 HACCP、ISOを取得」するとの衛生環境向上への計画は、消費者の安全・安心に繋がるので是非、お願いしたい。

（委員）将来コンセプトにおける「目標 2 の食育の中で『作業従事者の意識向上』はどういうことを考えているか？

（本市）南港市場で行っていること全てを見ていただくことにより、プロ意識を向上させることが大事であるとの認識である。

（委員）農林水産省も東京・大阪は建値市場として残していきたいという意向であり、単に肉を販売するだけではなく、市民への良質なたんぱく源の供給という使命を果たしていく必要があると考える。また、南港市場は、安全・安心、衛生面を向上させれば、大手販売メーカーの購買の意向もあるなど、取扱の頭数や購買も増えていくことができると考える。そのためにも施設の改良をお願いしたい。

（委員）平成 25 年度には 1,500 万円の調査費の予算がついたとのことだが、着工までの期間は通常、どの程度か？

また、それまでの間、設備維持にどの程度の予算で臨むことかできるか？

（本市）委託業者は数年先には抜本的な改修が迫られると指摘しており、市としては 5 年くらい先には大変厳しい状況になると見込んでいる、これらのことを踏まえ、より一層、検討を深めていきたいと考えている。

また、現在も毎年 1 億から 2 億円をかけて既存の施設の維持・延命を行っており、今後この方針で引き続き行っていくことを考えている。さらに、万が一 BSE や O-157 といった大きな課題が起こった際には、対応できる措置をとっていくことを考えている。

- (委員) コンセプトについては、全て希望の持てる内容である。年々上場頭数も減っている状況で、TPPの問題等もあるが、購買者が希望の持てる市場にしていれば購買意欲も向上すると考えることから、さらなるスピードアップをお願いする。
- (委員) 卸売業者にも要請はしているが月曜日の上場頭数が少ない。このことについて課題意識を持っていただきたい。
- (委員) 月曜日の上場頭数が少ないことについて、原因として考えられるのは、南港市場は他の市場とは違い生体重量で入場制限を行わず、全て受け入れており、個体が大きいものが多頭数になると冷えにくいということもあって風評があるようだ。市で改善してもらっており、各産地を回り頑張っていく集荷に努めていく。
- (委員) 将来コンセプトの中に、内臓処理方法の改善やシュートからトレイ型へ変更、HACCP、ISOなどの衛生環境の向上が盛り込まれており非常に喜んでいる。今後とも、コンセプトの実現に推進して欲しい。
- (委員) ハード、ソフトの両面から取組むことを我々が把握して取組む必要があると考える。国内の畜産がどういった状況にあるか把握し、十分に精査したうえで、無駄にならないように取組む必要がある。
- (委員) 農林水産省の第9次卸売市場整備基本方針との関係はどうなっているのか？
- (本市) 整備対象の市場であることは記載されており、齟齬はきたしていないと考えている。
- (委員) 南港市場には、各生産者の皆さんもお世話になったことに感謝しており、特に九州からは感謝と期待を寄せられている。取引頭数の減少については、出荷と購買の両輪が上手くいくことが重要と考える。
- (委員) 市場関係者の方が何年も求めて続けてきた施設の整備が前進したことは良いことである。しかし、計画から調査、完成までは時間がかかることなので、できるだけ早く進めていただくようお願いする。港湾事業も同じで、ハードがきちりと整備されている港は取扱いが増えている。
- (委員) 資料3の最終項において「市としての負担をできるだけ軽減するために運営面も含めて民間活力を…」とあるが、大阪市だけではなく大阪府も、奈良県も和歌山県も同様に負担を減らしたいと考えているが、近隣自治体との話ができていない状況。今後、大阪市の南港市場が中心的役割を果たすことになるが、近隣の府県から出荷分に対し、と畜場の建設費用を応分の負担として求めていくことが、大阪市の負担軽減に繋がる。こうしたことも一つのパターンでありスピード感を持って取組む必要がある。
- 農林水産省は産地で処理して部分肉を消費地へ持ってくることで、産地を育成してきたが、消費地でも解体するといった2本のレールは今後も引き続き堅持する必要がある。
- これらを踏まえてスピードが必要である。また、5年先の話も、それまで施設を維持していく話も、両方を大切にしたい。
- (委員) 施設を見学させていただいたが、施設の老朽化が率直な感想であり、早急に建替えが必要である。また、港に近く震災の影響も考える必要がある。
- 一方で、ある程度やむを得ないが、一般会計からの繰入金も行政としては大きな課題である。
- 施設整備にあたっては、PFI方式か従来方式かといった議論が1,500万円の調査費の中で出てくる。PFIはまだ先が見えないが、民間の力を借りるという意味では必要かと思う。衛生面、ハード・ソフト両面に渡って誇れるものにして貰いたい。また、スピード感を持って今年1年で方向性を出していただき、議会でも議論していきたい。
- (委員) 業者と行政が一緒にやるための「場」を設けることが大事。両者がそれぞれに交わりなく進めてはいけないと思うがその辺りはどう考えているか？

(本市) 今回の調査報告でも「活性化に向けては、将来コンセプトについて、市と関係事業者が連携しながら積極的かつ速やかに取り組むべき」とされており、業界の皆様と十分に連携していくことは当然と考えている。ただし、将来コンセプトは多岐に渡っており、今後具体的にどういった「場」を設けて、どういう形で進めていくかも含め十分に検討し、業界の皆様と協議しながら進めていきたいと考えている。

(本市) TPPの状況もあるが関税がどうなるかは解らない。農水の試算どおりではないと思っており、その影響も含めて検討していく。

また、整備にあたっては、産地の方や量販店への対応等も含め、自由度を増していかないといけない。一旦、形を決めて終了ということではいけない。さらに、将来の処理能力を見極めた適正な規模で行う必要があると考える。

安全衛生面については、HACCPやISOは大前提だと考え、安全・安心、安定的な供給というのが、南港市場に課せられた課題だと認識している。

ソフト面については、我々行政だけではできないため、業界の方にこれからどう関わっていただくか知恵をいただきながら進めていきたいと考えている。ハード面についても、出来た施設をお渡しするだけではなく、ご意見をいただきながら検討していきたい。

また、議会としての応援をいただいたので、今後しっかり我々が提案し、議会の中で議論させていただきたい。その他、民間活用や震災影響等含めて全体的にスピード感を持ってやっていきたいと考えている。